

令和5年度 「県産農林水産物輸出活性化支援調査業務」 調査結果概要

株式会社SHILO

2024年3月22日

調査結果概要 ~目的・調査内容

1. 調査目的

- 千葉県産農林水産物の輸出を一層活性化させるため、成田市場の開場等の輸出環境の変化を踏まえ、新たな取組方針を策定する。
- 具体的には、県産農林水産物の優位性や成田市場の課題整理、他県の先進事例等の調査を行い、輸出モデルケース及び県の今後の取組方針の提案を行う。

2. 調査内容

- 生産・輸出実態等データ分析
 - 貿易統計(UNcomtrade)、品目別産出額(農林水産省)、千葉県輸出量(千葉県庁)、国際定期便就航状況(国交省) 等に基づき分析
- ヒアリング調査
 - 千葉県内事業者、成田入居者等の輸出実態及び輸出意向等の調査を実施

3. 県産農林水産物の輸出ポテンシャルと有望市場

【県産農林水産物の輸出ポテンシャル品目】

- 県内生産量が一定あり(国内シェア10位以内目途)、日本からの輸出額が大きい品目(日本産品の市場規模が大きい)で、県内事業者の関心等が高いものを分析
 - 青果物：いちご、さつまいも、メロン、なし等
 - 水産物：キンメダイ、アワビ、冷凍イワシ・サバ等
 - その他：米、鶏卵、植木、切花等

【上記品目の有望市場】

- マーケット規模が一定以上あり、日本産品の輸出量が伸びている国・地域で、既に県内事業者の実績がある又は関心が高い国・地域を整理
 - 品目ごとに異なるが総じて有望市場は
 - 全般：台湾、マレーシア、タイ、北米
 - 水産物：上記に加え、ベトナム、EU、中東
 - 水産物以外：香港

(参考) 県産農林水産物のポテンシャル

青果物は、いちご、さつまいも、メロン、なし、その他野菜

有望品目	国の輸出 重点品目	千葉県産出額 (2021, シェア%)	日本産の輸出額 (2021, 億円)
りんご	✓	- 0%	162億円
ぶどう	✓	- 0%	46億円
いちご	✓	全国10位 3%	41億円
ながいも	✓	全国9位 0.1%**	23億円
さつまいも	✓	全国2位 19%	23億円
もも	✓	- 0%	23億円
メロン		全国8位 5%	11億円
かんきつ	✓	- 0%	11億円
なし		全国1位 11%	10億円
かき		- 0%	4億円

有望品目	国の輸出 重点品目	千葉県産出額 (2021, シェア%)	日本産の輸出額 (2021, 億円)
キャベツ		全国3位 8%	3億円
大根		全国1位 12%	2億円
にんじん		全国2位 21%	0.2億円
トウモロコシ (スイートコーン)		全国2位 10%	0.3億円
さといも		全国2位 13%	0.002億円
すいか		全国2位 12%	0.4億円
落花生		全国1位 88%	0.01億円*
かぼちゃ		全国8位 1%	1億円
ハウレンソウ		全国4位 8%	0.02億円
ばれいしょ		全国5位 2%	0.3億円

日本からの輸出額上位10位

その他 千葉県の産出額上位品目

(参考) 県産農林水産物のポテンシャル

水産物は、サバ類、カツオ、マグロ、イワシ類、キンメダイ、アワビ、その他鮮魚

日本からの輸出額上位10位

有望品目	国の輸出 重点品目	千葉県産出額 (2021, シェア%) <small>※シェアは県内事業者の水揚額で整理</small>	日本産の輸出額 (2021, 億円)
ホタテガイ	✓	- 0.0%	639億円
ブリ (養殖含む)	✓	全国9位 14%	246億円
サバ類		全国6位 7%	220億円
カツオ マグロ		全国18位 全国21位 0.6%	204億円
真珠	✓	- -	171億円
イワシ類		全国9位 4%	74億円
観賞用魚 (金魚除く)		- -	60億円
タイ類	✓	全国13位 2%	50億円
サケ・マス		全国13位 0.0%	35億円
ナマコ		全国19位 0.3%	25億円
スケトウダラ		全国19位 0.0%	20億円

千葉県の漁獲量が多い魚種

有望品目	国の輸出 重点品目	千葉県産出額 (2021, シェア%)	日本産の輸出額 (2021, 億円)
イセエビ		全国2位 16.2%	0.4億円
キンメダイ		全国1~2位 約30%*	データなし
スズキ		全国1位 29.1%	0.4億円
タチウオ		全国10位 7.1%	データなし
アワビ		全国1位 17.0%	1億円
ヒラメ カレイ		全国15位 2.0%	0.04億円
サンマ		全国8位 2.6%	6億円
アジ		全国14位 1.6%	50億円
天然ブリ	✓	全国1位 13.6%	データなし
アナゴ		全国8位 4.8%	データなし

出所: [zisseki-21.pdf \(maff.go.jp\)](#)、財務省貿易統計、[海面漁業・養殖業、海面漁業\(2021年\)](#)、*水産庁(2018) **食品データ館(2019)

(参考) 県産農林水産物のポテンシャル

その他、米、鶏卵、植木、切花等が輸出ポテンシャル品目と考えられます。

有望品目	国の輸出 重点品目	千葉県産出額 (2021, シェア%)	日本産の輸出額 (2021, 億円)
米	✓	全国8位 3%	59.3億円
米粉	✓	データなし	0.67億円
米菓		データなし	56.4億円
牛肉	✓	全国20位 1%	536.8億円
※輸出認定を受けた食肉センターの整備が必要			
豚肉	✓	全国5位 6%	20.1億円
※豚熱の清浄化が条件			
鶏肉	✓	全国16位 3%	13.0億円
牛乳	✓	全国5位 3%	243.9億円 (牛乳・乳製品)
チーズ		データなし	データなし
鶏卵	✓	全国6位 4%	58.7億円
植木		データなし	69.3億円
切花	✓	全国3位 5%	13.4億円

米・畜産・花き

(参考) 輸出ポテンシャル品目とターゲット国・地域

◎市場大、○市場中、△市場小、-不明

市場が伸びている

◎既に県事業者が定期的に輸出 ○県事業者がスポットで参入 ×(ほぼ)未参入

県事業者関心が高い

	中国・香港		台湾		シンガポール		マレーシア		タイ		ベトナム		北米		豪州		EU		中東	
	規市 模場	状況 県内	規市 模場	状況 県内	規市 模場	状況 県内	規市 模場	状況 県内	規市 模場	状況 県内	規市 模場	状況 県内	規市 模場	状況 県内	規市 模場	状況 県内	規市 模場	状況 県内	規市 模場	状況 県内
さつまいも			○	○	○	◎	○	◎	◎	◎	△	×	△	×	△	×	△	×	△	×
いちご			○	◎	○	○	○	◎	○	◎	△	×	△	○	△	×	△	×	△	×
なし			◎	○	◎	○	△	○	○	×	○	×	○	×	△	△	△	×	△	◎
米			△	×	◎	◎	○	×	○	×	○	×	◎	◎	○	◎	○	×	△	×
米粉			◎	×	○	×	△	×	△	△	○	△	○	×	△	×	△	×	△	×
鮮魚			○	◎	○	◎	△	◎	○	◎	○	◎	○	◎	△	○	△	◎	○	◎
冷凍水産 水産加工			○	◎	○	◎	△	◎	○	○	○	◎	◎	◎	△	-	○	◎	○	◎
餌/原料用 冷凍水産			-	×	-	×	-	◎	-	◎	-	◎	-	×	-	×	-	×	-	×
鶏卵	◎	◎	○	×	○	○	△	×	△	×	△	×	△	○	△	×	△	×	△	×
切花	◎	-	△	-	△	-	△	-	△	-	△	-	△	-	△	-	△	-	△	-
成田発便 の優位性				◎		○		◎		○		◎		○		△		○		○

中国・香港向けは処理水の動向を見ながら検討

注：調査結果のうち事業者の輸出実績は、千葉県内で輸出に取り組む事業者等へのヒアリング結果に基づくものであり、千葉県産以外の農林水産物に係るものを含む

4. 県産農林水産物の輸出活性化に向けた課題整理

- **輸入規制の課題**：ALPS処理水放出に伴い、香港等への水産物は輸入停止されている。また香港（水産物以外）、台湾等への輸出の際には放射性物質検査を実施した上で輸出する必要があり、事業者負担になっている。
- **生産段階の課題**：千葉県は全国的に生産量が多い品目があるものの、他国の規制に応じた園地登録や衛生基準に対応している産地が少ない点(参入障壁が厳しい国への参入対応)が課題。また、海外マーケットにおける競争力を持たせるため、輸出用として大ロット化・効率化していく生産体制づくりが課題。
- **付加価値に関する課題**：青果物については、マーケットニーズのある品種への転換、水産加工品・加工食品・米粉等について輸出国側の食べ方に合わせた商品開発や生産計画の取組が限定的である(例えば、千葉県の水産物を代表するキンメダイの煮つけ、切り身などについても引き続きマーケットインの観点から加工により付加価値をつける等の工夫が必要)。
- **物流面での課題**：千葉県含む首都圏は主要港湾・空港が近い産地であることから 地方部の産地と比べて物流面で優位である。しかし、成田市場に県内から直接、輸出用に物流を引く場合には自社集荷したり、トラックをチャーターするケースがあるため、物流効率化する余地がある。また高鮮度保持等のための梱包資材コストなども課題。
- **商流構築に関する課題**：新規・既存問わず、商流構築が共通の課題。販路開拓のアプローチ先を明確化したり、ターゲット国・品目を絞らないと販促リソースが分散してしまうことが課題。

*千葉の他、福島、茨城、栃木、群馬の青果物・水産物は検査が必要(香港については福島の青果物は輸出禁止、台湾については岩手・宮城の水産物も検査が必要)

**昨年度の農水省実証結果によると検査及びサンプル輸送費用で成田(千葉薬剤師会検査センターの検体回収費含む)実施の場合は42,800円

産地手配(新日本検定協会)の場合は26,600円要した

調査結果概要 ~品目別取組の方向性の提案

いちご

生産：仕向地・顧客に合わせた**輸出用産地形成（特に成田近郊の産地）**
商・物流：**成田市場への物流・集荷力を強化**し、物流コストを削減

さつまいも

商・物流：**サイズ指定のない販売先との連携**
大ロットを成田近郊産地や成田市場でバンニングし物流コスト最小化

なし

生産：**低コスト生産を念頭においた輸出用生産を志向する生産者の支援**
商・物流：産地の意向次第では市場物流構築

牛肉

商・物流：ミドル層狙いで、食肉センターの輸出認定が必要ない**カンボジア・モンゴル向け**に
スライス加工等 の加工バリエーションを工夫した**ニッチ戦略**

鶏卵

生産：鶏卵の**印字機**の支援など
商・物流：**生卵を食べる国への訴求**、半生で食べるような文化遡及

米

生産：商社が求める輸出用米品種を大ロットで生産できる生産者の支援
商・物流：**商社との密な連携**が必須

鮮魚

生産：**産地・成田市場のEU HACCPの取得**により欧州市場の反独占を狙う
商・物流：銚子から成田市場の物流を構築

冷凍フィレ 水産加工品

生産：特殊な加工技術をもつ事業者との連携し、マーケットニーズのある水産加工を試作・輸出実証
商・物流：**成田市場の製氷機設置**など市場で加工・梱包しやすい環境を整える

冷凍水産物 (サバ・イワシ等)

漁獲高に依存し、生産・販売面で支援できることは限定的
国庫事業の活用によるHACCP等の取得支援や商談機会の提供は可能

切花

生産：**特定の販路を持っている輸出事業者との連携**
商・物流：切花は成田市場に集めて成田空港から輸出するルートを実証

5. 成田市場、成田空港の現状と課題の整理

【羽田空港と比較した成田空港の優位性比較】

- 成田空港は羽田空港と比べて航空便(2023年11月時点)の就航国の数が**1.6倍**、就航都市の数が**1.9倍**、便数合計では**1.3倍**と航空便の仕向地の多様性・便数において優位である。
- 成田空港は、**台湾、東南アジア(タイ、シンガポール除く)、カナダ、メキシコ、UAE、モンゴル、ニュージーランド**の便数が羽田空港に比べて多く、逆に欧州、米国、豪州については羽田に比べて便数は少ない状況にある。
- 成田空港は**24時間化されていない**点が弱み。例えば、香港便は成田発が多いものの、羽田発朝便で輸出して現地の夕方レストラン着に間に合う便(いわゆる**DAYゼロ便**)があり、特に**鮮魚の香港向け輸出は羽田発便が独占的**となっている。

【成田市場を活用した農林水産物の輸出の現状】

- 成田市場は水産棟・青果棟・高機能棟を備え合計で40を超える卸・仲卸・物流事業者等の事業者が入居。
- 成田市場内の卸・仲卸が輸出に取り組むほか、成田市場に入居していない事業者も市場機能を活用した輸出を行うほか、近年その利用意向が高まっている。

ハード(特に製氷機・冷凍庫)及びソフト(検疫時間・空港-市場間輸送)いずれも課題有。

<p>(主に成田入居者の)海外の商流</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成田入居者の海外の商流が細く、安定しない点が課題
<p>卸及び仲卸の倉庫のキャパシティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市場の卸(荷受け)の保管倉庫キャパシティは、将来輸出が増えればキャパオーバーとなる潜在課題。 輸出する仲卸の荷造りスペースのキャパシティは十分。
<p>物流事業者の荷捌き場のキャパシティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 物流事業者の荷捌きスペース、検疫の時間に整列する際にキャパオーバーになることあり、検疫時間の柔軟化が望まれる
<p>製氷・凍結などの機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> 共用の製氷機がない、市場内に氷販会社がない 共用の凍結機・冷凍庫・冷蔵庫がない
<p>空港までのピストン輸送</p>	<ul style="list-style-type: none"> 片道約30分程度は要するため、航空便にうまく合わせる運行管理が大変であり、輸出量が増えた場合の市場⇔成田空港間の輸送効率化が課題となる
<p>輸出に必要な書類発行</p>	<ul style="list-style-type: none"> 放射性物質検査証明書は、連携する検査機関が市場でのサンプルの回収・オンラインでの証明書発行は可能なものの、検査日数、コスト面での課題あり。
<p>成田市場までの産地便・市場便</p>	<ul style="list-style-type: none"> 青果卸の成田・香取近郊集荷のみ、水産は一部の仲卸が銚子→成田→豊洲の便を有する。今後、輸出向けの市場・産地便ルート構築が必要

成田市場内

調査結果概要 ～成田市場、成田空港を活用した輸出の現状と課題

成田市場拠点の輸出者による輸出拡大に向けては商流構築が課題

大田・豊洲市場拠点の仲卸等の成田市場の活用を促進するためには

青果 = 成田市場の利便性向上が鍵、水産 = 輸出環境の整備が必要。

		← 成田市場での作業内容 →			輸出拡大に向けた 検討事項	
輸出商社		卸を通じた集荷 (市場便)	梱包・加工	パレタイズ 通関		
↑ 成田拠点	青果	シティ青果成田(卸)	○	○	} 商流構築 物流効率化	
		輸出実績のある仲卸	△	○		
		輸出実績のない仲卸	○	×		×
↓	水産	大都魚類(卸)	○	×		×
		輸出実績のある仲卸	△	○		○
		輸出実績のない仲卸	○	×		×
↑ 成田以外	青果	輸出実績のある仲卸A	△	○	} シティ青果成田の 機能・サービスの利用等	
		市場外の輸出事業者	×	×		○
	↓	水産	豊洲市場と成田市場拠点をもち、 中規模に輸出している仲卸B	今後○	今後○	今後○
豊洲市場で大規模に輸出 している仲卸C			今後△	今後○	○	

6. 他自治体の取組調査

- 大消費地近郊産地である茨城県、静岡県などが状況に近い自治体の取組を調査
 - 各県ともに、生産面、流通面、販売面の3施策を実施
 - **静岡県**：販促施策、規制に対応する産地育成、市場物流の改善
 - **茨城県**：販路開拓が主眼
 - **福岡県**：県とJAが出資して輸出商社を作るなど、県・JA主導で販路作り
- 農林水産物の生産量が多く、流通の優位性をもつ千葉県との施策相性を考えると、以下の施策が有効。
 - **生産面**：県内生産者の輸出産地形成支援又は県外からの農業法人の誘致
具体的には、産地の農薬規制や園地登録支援、水産のEU HACCPの取得など半独占的に参入できる環境構築をしたり、低コスト生産を図る施策
 - **流通面**：成田市を輸出拠点にし、物流コストを最適化する取組を支援
 - **販売面**：ターゲット国・品目を研ぎ澄まし、販促リソースを戦略的に投入

調査結果概要 ~各県施策マッピング

輸出経験が少ないが好立地という千葉県生産者との施策相性を考えると、県内生産者の販路拡大支援と、参入障壁の高いマーケットに輸出できる環境構築する施策が優先。

	県内プレイヤー		県外プレイヤー	千葉県との施策相性	
	JA系統	非JA系統		相性	備考
生産	産地の規制対応支援(福岡)	・県内全域でベトナム向け規制緩和に対応した産地支援(柑橘)		良	EU HACCP 台湾向けいちご等
		・日本農業の産地参入を機に輸出用産地拡大支援(さつまいも)	生産拡大・効率化(静岡)	中	県内生産者が優先だが、 県外法人も視野に入れる
		有機栽培転換支援(鹿児島)	・Japan Potatoの有機転換支援	良	
流通	市場商流活用(福岡・静岡)	・近隣県産地からの集荷・混載、委託販売品による市場差し替え		良	成田市場の立地を 考えると実現可能性あり
	・市場便の活用 ・市場でのバンニング・パレタイズ実施		市場物流活用(静岡)	良	市場間転送と成田近郊 の物流強化は必要
	・市場の選果梱包施設の登録		市場の規制対応支援(静岡)	良	成田市場の EU HACCP等
販売	地域商社設立/支援(福岡)	・県とJA出資による商社(九州農水産物通商)設立		-	直販が多く千葉に合わない
	・県の営業仲介機能・体制強化 ・委託契約による県産品販路拡大	・委託契約による県産品販路拡大	PPIH販路拡大協定・委託(静岡)	中	大型量販店との連携は 可能性がある
		県による営業体制強化(茨城)		良	輸出経験ある生産者少 営業リソース集約の必要性

7. 今後6年間の取組方針の提案

- **輸出ポテンシャルを踏まえた輸出産地形成に向けた支援：**
 - **参入障壁対応：**鮮魚のEU HACCPの認証取得、タイ向け等の青果物の選果梱包施設登録、農薬規制の厳しい国の防除暦管理の対応などへの支援を行う。
 - **生産効率化・大ロット化：**青果物（いちご、かんしょ、なし等）については、**輸出向け生産に転換しうる産地又は生産転換しうる農地の情報を収集・集約し、輸出を拡大したい県内生産者又は県外農業法人とのマッチングを図る。**
 - **付加価値に関する課題：**青果物の品種転換、水産加工品・加工食品・米等の輸出国側の食べ方に合わせた商品開発や生産計画を行うべく、**マーケットインの観点からの現地ニーズ調査及びレシピ開発等に対して支援を行う。**
- **ALPS処理水放出等に伴う輸入規制に対する対応：**引き続き、国等を通じて規制撤廃を求めていく。
- **最適な輸出物流構築に向けた取組支援：**成田市場を活用した効率的な輸出物流構築に向けて課題を深堀し、**特に成田近郊の国内物流の効率化を図る。**

7. 今後6年間の取組方針の提案(続き)

- さらに、モデルルート(新規ルートで、将来的に大ロット輸出を見込め、生産側の改善について乗り越えるべき課題がある中長期的に取り組む品目で、他品目・ルートもアナロジーで輸出拡大が見込めるもの)を特定し、輸出を推進していく。
 - 具体的なモデルルートという品目としては、いちご、なし、さつまいも、鮮魚・水産加工品、切花などが考えられるが、それぞれの品目について、現地の日本製品の市況成熟度や商流の形態(業務用/小売向け等)によっても安定性・継続性が異なる。
 - 例えば、成田近郊の青果物の台湾向け産地育成と当該物流ルート構築等
- 輸出ステージを踏まえた戦略的販路拡大支援：
 - **品目別に販路開拓のアプローチ先の明確化、ターゲット国・品目の研ぎ澄まし**を行い、販促リソースを集中して千葉県産の販売促進に関する取組を行う。
 - 具体的には①青果物については輸出入両機能を持つ商社/卸、②水産物については仲卸兼商社及び外食店、③加工食品については大企業は特に現地小売、中小企業は日系の食品商社へアプローチするなど、品目・事業規模に応じて千葉県産調達の意思決定権を持つ者に対する販促にリソースを集中することが重要。

輸出活性化に向けた今後6年間の取組の方向性

ニーズ調査

品種改良
規制対応

テスト輸送
テスマケ

輸出開始
運用改善

安定輸出

該当する品目・取組の例

2024年

2029年

